

愛知県における公営住宅の自治会活動に関する研究 - 福祉・医療と地域コミュニティ問題を中心として -

A Study on the Self-Governing Body Activity of Public Housings in Aichi Prefecture The Viewpoint of the Welfare / Medical Care and the Issue of Local Community

柘植美孝*, 建部謙治**
Yoshitaka THUGE and Kenji TATEBE

Abstract The purpose of this report is to clarify the relationship between community problems and the self-governing body activity of a housing complex. The self-governing body activities of public housing in Aichi prefecture were investigated using direct questioning and postal questionnaires.
The main results are summarized as follows.
1) Self-governing body activity loss is greater in larger complexes than in small ones.
2) Self-governing body organizational structure is related to the reasons for the actions of self-governing bodies.
3) The Hirabari housing complex system of a resident self-governing body is being advanced throughout Aichi.
4) Enhanced welfare and medical services were offered to senior citizens in cases of specialized agencies cooperating with the self-governing body.

1. 序論

1-1 研究背景

公営住宅の1つである公営住宅は、昭和26年の公営住宅法制定に基づき、低所得者階層に対する賃貸住宅として供給された。築後40年以上経過した公営住宅では、建物の老朽化、家族構成の変化に伴う住戸の適応不足、設備・性能の低下、居住者の高齢化、生活に必要な機能の不足などの問題を抱えている。

公営住宅の必要性が問われる中で、国の施策は小規模で現代のライフスタイルにあった公営住宅住戸の計画がなされてきている反面、十分な管理ができない状況である。医療福祉においても年々制度が改正され、高齢者や障害者たちにとっては厳しい状況になりつつある。また、公営住宅では外国人の入居、地域コミュニティなどの問題が上げられるが、特に高齢化問題が懸念されている。高齢者の多

くは施設に頼るものも出てくるが、高齢者施設は地域に対して閉鎖的になりやすく、加えて上記でも述べたように厳しい現実がある。今後、高齢施設と地域が接点を持つこと、そして施設に代わる高齢者を助ける新たな仕組みを考える必要がある。

現在愛知県下の団地では建て替え事業が進められている。ここで建て替えというものは建物だけの問題ではなく、地域全体を考え直さなければならない。最近の一般住戸は高齢者対策や福祉サービスが充実してきているが、平針団地においては福祉サービスにおける配慮があまりされていない。しかし、自治会活動により足りない部分、すなわちハードでは補うことができる。岩本¹⁾は、住民が主体となってまちづくりを行い、まちづくりを通して高齢者の居場所を再構築していくことを指摘している。ここでは活動を行うにあたって地区や自治会組織と専門機関との協働の必要性が注目されている

* 愛知工業大学建設システム工学専攻 大学院生

** 愛知工業大学 工学部 都市環境学科(豊田市)

1-2 研究目的

現在、地域の公営住宅自治会では様々な活動が行われている。しかし、それぞれ取り組んでいることや抱えている問題は異なる。そこで、愛知県営住宅に着目し、県営住宅の現状と自治会活動の内容を把握する。その中でも、社会的な問題とされている高齢化に関して、福祉施設と地域コミュニティ問題が自治会活動とどのような関係があるのかを明らかにする。

1-3 研究方法

研究方法としてはまず、文献による既往研究調査を行った。次に、愛知県営住宅の自治会活動を検討するために愛知県営住宅の自治会にアンケートとヒアリングの 2 つの調査を行った。最後に、全国でも福祉施設が充実している団地をインターネットで検索し、福祉サービスや団地周辺に位置する福祉施設のサービス内容をヒアリング調査し、県下で先進的な平針団地と比較を行った。先進事例の阿久和団地との比較方法としては、現在行われている自治会での取り組みを照らし合わせ、平針団地周辺の福祉サービスと阿久和団地周辺の福祉施設とを見比べて、両者の相違点を明らかにしてゆく。

表 1 に調査方法の概要を示す。

表 1 調査方法概要

調査内容		愛知県		全国	
		自治会	福祉施設	自治会	福祉施設
アンケート			x	x	x
ヒアリング					

2. 調査概要

調査は以下に示す 4 つを実施した。

調査 1 愛知県住宅管理事務所のデータによると、現在愛知県に 302 の団地があり、同じ数の自治会が存在している。そこで、愛知県の県営住宅 302 ヶ所に郵送によるアンケート調査を行った。アンケートは「入居状況」「建物自体」「団地施設」「自治会活動」「その他の活動」の 5 項目について選択式を多く用いて、記入者に負担がかけられないよう質問した。アンケートの調査項目の概要を表 2 に示す。

表 2 調査項目概要

1. 入居状況	世帯数 (世帯)	4. 自治会活動	役員会合
	総人口 (人)		清掃活動
	年齢層 (%)		趣味・生きがい
建設年度 (年)	多世代交流		
住戸数 (戸)	福祉		
2. 建物自体	階数 (階)	5. その他の活動について	医療
	集会場		地域団体との関係
3. 団地施設	医療・福祉施設		県住連の参加

調査 2 郵送アンケートでは聞くことができなかった大規模団地(900戸以上)の6自治会に対してはヒアリング調査を行った。調査 1 と同様、現状と内容の把握に加えて、自治会を運営していく上での問題点や課題について質問した。また、平針団地は自治会活動が非常に活発で、地域団体との交流も密であるため愛知県の先進的な事例として選出した。

調査 3 全国で福祉施設が充実している団地の選出にあたっては、平針団地に近い規模を持ち、近年建設されたもの、もしくは公営住宅に福祉施設を併設しているものを条件とし、候補の中から阿久和団地(神奈川県) 熊野団地(広島県)の2団地を選出し、ヒアリング調査を行った。

3. 愛知県営住宅アンケート調査の結果・考察

302 自治体に郵送によるアンケートを行い、回収できた自治会は 54 自治体(回収率 17.9%)であった(表 3)。図 1 は回収したアンケートを地域別に記したものである。名古屋、尾張地区は比較的多い。山間部を除いて、ほぼ県下まんべんなく広がっている。

以後回答のあった 54 自治会についての分析結果を示す。

表 3 アンケートの回収率

送付数	返信数	回収率
302	54	17.9%



図 1 地域別回収状況

3-1 回収団地の数と回収率

図 2 は愛知県営住宅における住戸規模別の割合とその回収率を示している。左側の棒は規模別の構成比率を示し、[規模別団地数/302]で求めた。右側は今回回収した規模別割合を、[回収数/規模別団地総数]で求めたものである。

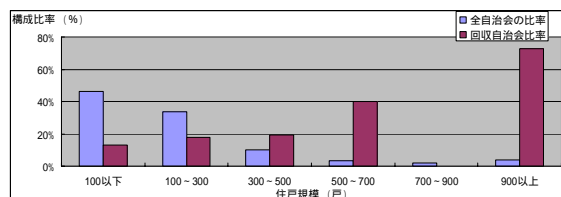


図 2 規模別別構成比率と回収率

県営住宅のうち、ほぼ半数が100戸以下の規模である。基本的に小規模の団地が多く、規模が大きくなるにつれて比率も低くなっていく。愛知県営住宅の中で最大規模の団地は1350戸で、最小規模のものは7戸であった。

回収状況を見ると、100戸以下は1割程度しか回収できなかった。500～700戸では4割、900戸以上ではヒアリング調査を含め7割程度の回収率である。

3-2 建設年度別割合と階数

建設年度別構成比率を示したものが図3である。左側の棒は回収した54団地の構成比率を示し、右側の棒は愛知県302団地の構成比率である。

これより、新耐震設計基準が設けられた昭和56年以降に建設された住宅が半数以上占めている。過去にさかのぼるにつれて、住宅建設数も減少傾向で、昭和56年以前の住戸は建て替えの時期にさしかかっている。

建物の階数については、4、5階建てが多く全体の50%近くを占めている。一番低い建物で2階、高い建物になると14階で、4、5階を境とし、そこから高くなるにつれて少なくなる傾向がある。

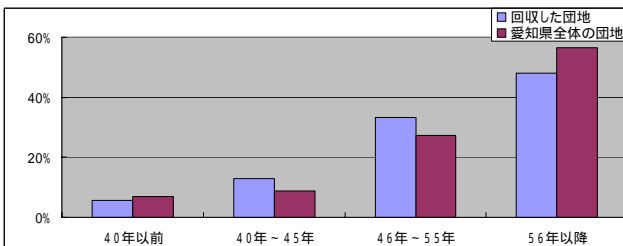


図3 建設年度別団地（住宅）割合

3-3 団地の周辺施設

集会場については、85%の自治会が「ある」と回答し、1自治会だけ無かった。集会場がない自治会は全28戸という小規模のため、学区もしくは地域単位で共同して活動を行っていると考えられる。

主な集会場としては、会議室・和室が多く設けられていた。次いで調理室・洋室と部屋の規模が大きくなるにつれて機能も充実してくる。収容人数においては50、60人が30%を占め、残りはばらついた結果となった。最小では20人という自治会が1つ、最大規模は200人という自治会が2つあった。

団地周辺に日用品を購入する商店施設はあるかという質問には、54自治会中9団地のみ「ある」と回答し、また、9団地のうち7団地は900戸を超える大規模団地であった。規模が大きくなるほど商店施設が設けられている確立が高い。

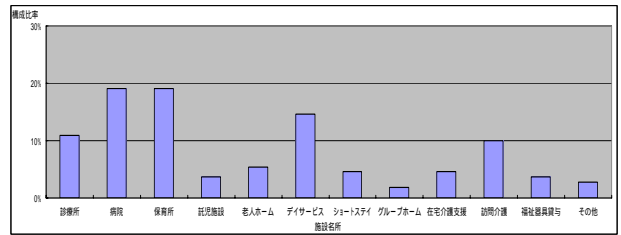


図4 団地（自治会）周辺の医療・福祉施設の構成比率

団地周辺の医療・福祉施設については図4に示す。図から分かるように、団地周辺に様々な施設が設けられているが、多いのが病院・保育施設である。託児施設については保育所がある場合は設けられていない。また、福祉施設については団地から離れていても、車などで迎えに来るケースがあるため、とりわけ団地周辺に設けられているわけではない。

3-4 自治会活動

自治会の役員会は民生委員や区政協力委員など様々な委員会で構成されている。委員会ごとに住民向けの活動が行われ、住民行事として1年を通して色々な催し物が行われる。

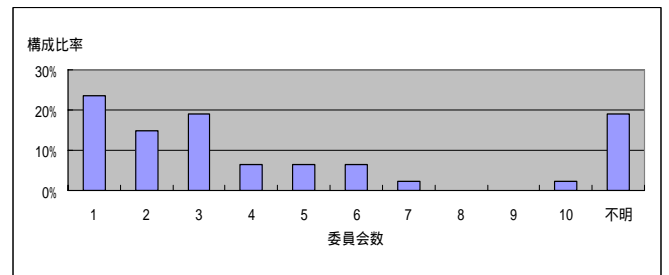


図5 委員会数と構成比率

() 自治会の委員会数と自治会活動

図5は自治会の持つ委員会数と構成比率を表したものである。6割近くが1～3種類の委員会で構成され、活動を行っている。特に多い委員会としては「駐車委員会」、「区政協力委員会」である。駐車委員会が設けられた背景には駐車場不足の問題や違法駐車、車や二輪等の放置が原因と考える。

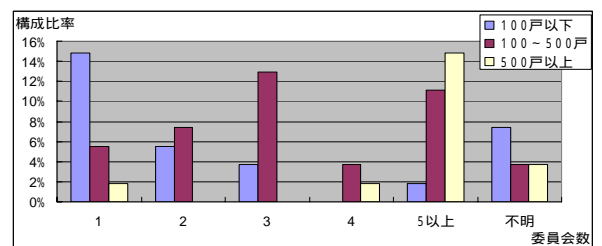


図6 団地規模と委員会数との関係

図 6 は団地規模と委員会数との関係を示したものである。団地規模が小さい所は委員会の構成も 1~2 と少ない。逆に住戸規模が大きくなるにつれて委員会も多く構成され、自治会の活動が活発になる傾向にある。

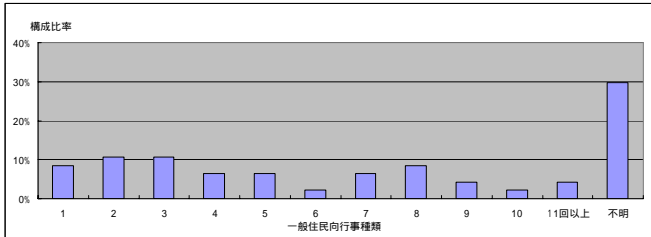


図 7 行事回数と構成比率

図 7 は一般住民向行事の種類(回数)と自治会の比率を示したものである。住民向けの行事は分散していて、10種類近くの活動を行っているのは一部の自治会のみである。

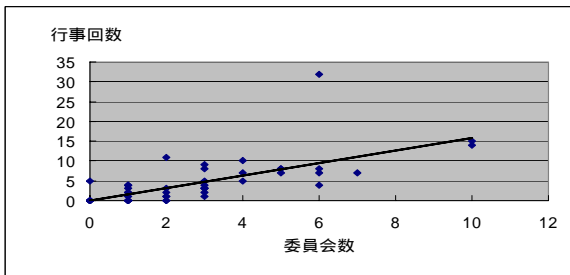


図 8 委員会数と行事回数の関係

そこで、委員会数と行事回数の関係を図 8 に示す。図より一部を除くと委員会数と行事回数はやや相関関係があるといえる。すなわち大規模団地ほど委員会も多く活動も活発になる。

() 趣味・生きがい、多世代交流

自治会活動(行事)を類型化すると表 4 の通りである。

趣味・生きがいに関する活動は住戸規模の小さいほど取り組まれていない。しかし、多世代交流に関しては「お祭り」などの季節行事に取り組んでいる自治会が多く、住戸規模にさほど関係しない。

数多くの活動を行っている自治会もあれば、ほとんど活動ができていない自治会もある。活動には自治会以外の機

表 4 住民向け自治会活動一覧

分野	内容
趣味・生きがい	民謡・詩吟・茶道・書道・音楽・囲碁・将棋・手芸・着付・舞踊・料理・語学
多世代交流	こどもの日・七夕・夏祭り・もちつき大会・クリスマス会・スタンプラリー・バザー・産直・文化祭・福祉祭・敬老会
福祉関係	食事サービス・生きがいサービス・生活相談・地域デイサービス
子育て支援	子供会・見回り運動・登下校時の交通安全・危険箇所のマップ作成
医療関係	健康診断・健康相談・健康体操・地域リハビリサービス
自助関係	家具転倒防止・ガス漏れ警報機取り付け・一声サービス・ボランティア

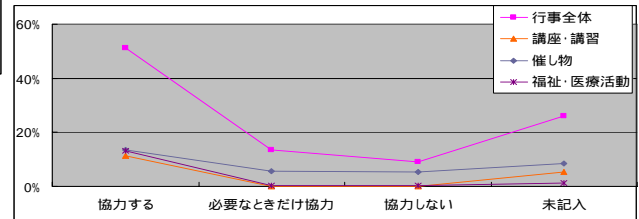


図 9 自治会活動別協力機関との関係比率

関の協力が関係していると考えられるので、図 9 でその関係性について分析していく。講座・講習と催し物に関しては老人会などが協力し、福祉・医療に関しては社会福祉協議会や保健所などが協力機関として存在する。

図 9 より他の機関と「協力関係にする」という自治会は比較的活動が行われている。催し物である祭りやスポーツなどは取り組みやすい行事があるため、協力機関がなくても活動が行える。一方、医療・福祉に関しては専門的な知識や技術が必要なため、協力機関が無い事には活動が行えない。

4. ヒアリング調査の結果・考察

表 5 は大規模な 7 団地のヒアリングの調査に基づいて自治会組織や活動単位などについて示している。

自治会長については一定期間継続している自治会があるが、平針団地を除くと、役員に関してはどこも 1 年交代である。自治会規定書という選挙や役員、活動に関してまとめられたものがある自治会が 3 つだけあった。

自治会の構成地域として、団地内だけで構成されている自治会もあれば、学区の中の 1 つの自治組織として学区単位で活動をしている自治会もあった。7 団地の中で名古屋市内の県営住宅には「平針」と「辻町」と「中川」と「鳴

表 5 自治会組織概要

住宅名	住戸数	連合会組織	自治会長について		自治会役員について		自治会規定書の有	自治会の構成地域		活動の構成要素		
			1年交代	一定期間継続	1年交代	一定期間継続		学区	団地	学区	団地	行政
辻町団地	1019戸	x	x			x						
鳴海団地	1262戸	x	x			x					x	
中川団地	942戸	x		x		x				x		x
平針団地	1297戸	x	x			x						
萩山台団地	1002戸			x		x		x		x		x
原山台団地	1659戸			x		x		x		x		x
保見団地	1350戸	x		x		x		x		x		x

愛知県における公営住宅の自治会活動に関する研究

表6 自治会活動一覧

	委員会数	辻町団地	鳴海団地	中川団地	平針団地	萩山台団地	原山台団地	保見団地				
講習・講座	民謡	x	個々で実施	x	市が主体的に行う	市が主体的に行う	市が主体的に行う	x				
	詩吟	x		x				x				
	茶道	x		x				x				
	書道	x		x				x				
	舞芸	x		x				x				
	囲碁	x		x				x				
	将棋	x		x				x				
	手芸	x		x				x				
	着付	x		x				x				
	料理	x		x				x				
	語学	x		x				x				
	スポーツ											
	パソコン教室	x						x	x	同上		x
	こどもの日			x				x	x	x		x
多世代交流	七夕	x	x	x	x	x		x				
	夏祭り											
	もちつき大会		x	x		x	x	x				
	どんと焼	x	x	x	x	x		x				
	クリスマス会							x				
	ハイキング	x	x	x	x		x	x				
	スタンプラリー	x	x	x		x	x	x				
	ハザード	x	x			x	x	x				
	産直広場	x	x	x		x	x	x				
	バスレク		x	x	x	x	x	x				
福祉	食事サービス	x		x		x	x	x				
	生きがいサービス	x		x		x	x	x				
	生活相談	x	x	x	x	x	x	x				
子供	地域デイサービス	x	x	x	x	x	x	x				
	子供会		x	x				x				
	育児サービス		x	x	x	x	x	x				
	見回り運動		x	x		x		x				
医療	登下校時の交通安全							x				
	危険箇所マップの作成	x						x				
自助	健康検診			x		市が主体的に行う	市が主体的に行う	x				
	健康相談			x				x				
	健康体操	x		x				x				
	地域リハビリサービス	x	x	x	x			x				
	買い物サービス	x	x	x	x	x	x	x				
	一声サービス	x	x	x	x	x	x	x				
	ボランティア	x	x	x	x	x	x	x				
	家具転倒防止対策	x	x	x				x				
	ガス漏れ警報機取り付けサービス	x	x			x	x	x				
	防犯訓練		x	x	x			x				
夜間パトロール			x		x	x	x					
草刈	x	x		x	x	x	x					
挨拶運動	x	x	x	x	x	x	x					

表7 自治会の課題

	辻町団地	鳴海団地	中川団地	平針団地	萩山台団地	原山台団地	保見団地
コミュニティ形成		x					
外部との繋がりが	x	x	x	x			x
男性の方の自治会参加	x	x		x	x	x	x
役員の担い手							
少子化	x		x				
高齢者の参加	x		x	x	x	x	x
安全対策(防災面)	x	x	x				x
高齢者対策	x		x				x
外国人居住者	x		x				
ゴミの処理		x	x	x	x	x	x
不法投棄			x		x	x	
放置自動車			x				x
放置自転車			x		x		x
車などの環境整備	x	x		x		x	x
災害用台簿作り	x		x	x	x	x	x

海」団地であるが、辻町と鳴海団地に関しては学区を中心とした活動が多い。瀬戸市の萩山、原山団地は市が提供する講習・講座活動があるため自治会での活動は催し物や防災といった事が多い。豊田市の保見団地では外国人の入居者が多く自治会役員が不足しているため、なかなか自治会

表8 自治会の活動内容

	自治会活動 活動内容	福祉施設活動 サービス内容			地域交流活動	
		訪問介護	リハビリ	活動内容	協力団体	
平針団地	会食サービス	デイサービス	訪問介護	リハビリ	健康相談	保健所
	配食	福祉用具貸与	ショートステイ	グループホーム	健康体操	社会福祉協議会
	家具転倒防止策	介護タクシー	居宅支援サービス	勉強会	レクリエーション	社会福祉協議会
	ガス漏れ警報機設置	ケアマネージメント	特別養護老人ホーム	支援費	勤労体験	社会福祉法人
	老人会・子供会	世代間交流	障害者地域作業所	訪問入浴	清掃活動	消防団
可久和団地	老人会・子供会	配食サービス	通所介護	相談所		
	ひなたぼっこ	地域交流	居宅介護支援事業	グループホーム	健康体操	ケアプラザ
熊野団地		軽費用老人ホーム	障害者地域作業所	勉強会	ふれあい広場	連合自治会
		在宅介護支援センター	デイサービス	育児支援サービス	地域デイグループ	ボランティア団体
		パトロール(見回り)	デイサービス	レクリエーション	入浴サービス	育児支援
		保険相談	子育て支援サービス	健康器具貸与		

での活動が行えない状況にある。

表6は自治会ごとの活動を示している。同じ委員会数でも活動内容に違いが見られる。これは表5の自治組織が関係していると考えられる。保見団地・中川団地は自治会長・自治会役員とも1年で任期が交代であるため、活動は前年の引継ぎを主に行っている。また、役員になって仕事を精一杯行くと、次の役員の人から苦情を言われるといった事も起こっている。萩山台、原山台は自治会長こそ代わるものの、連合会長が継続で行われているため、活動の引継ぎ、自治会の問題点の改善等を明確に判断できる。平針団地は自治組織もしっかりしているため自治会活動において非常に活発であることがわかる。

表7は自治会の課題をまとめたものである。抱えている課題は同じような傾向があり、どの自治体も役員の担い手の不足やコミュニティの形成といった点が課題となっている。周辺環境に関しても放置自動車や放置自転車、不法投棄といった課題が山積みである。片付けても次々出てくるため、自治会としても地道な回収作業しかない。子供の減少で子供会活動の縮小、消滅といった事が起こってきている。萩山台、原山台は自治会長こそ代わるものの、連合会長が継続で行われているため、活動の引継ぎ、自治会の問題点の改善等を明確に判断できる。活動の内容についてはどの自治会も同じような活動を行っている。自治会によっては、非常に進んでいる部分がある反面と一部がかけたりと全体的なバランスがなかなか取れていない。しかし平針住宅は全体的見ても部分的にみても、他の住宅と同じもしくはそれ以上であるため、活動として先進的と言える。自治会活動が活発に行われる理由として、自治会が「コミュニティの希薄化の進行を抑える」、「団地の治安を守る」といった事が活動につながっていると考えられる。また、活動が不活発な理由として高齢化や役員の担い手の不足、住民の参加者の減少などが上げられる。自治会活動は住民のために行われるものである。よって住民側の視点で自治会活動をまとめると、活動が行われる事によって「無料で受けられる福祉サービスがある」、「地域が安全で住みやすい街となる」といった事があげられる。自治会が活動を行う事によって、住民に喜ばれ、地域づくりの一貫を担っている。

5. 自治会及び福祉サービスの比較結果・考察

平針団地の福祉サービスについては自治会を中心とした活動である。これに対して阿久和団地は自治会組織として活動はしているが、メインは地域ボランティア組織や専門機関が主な活動を行っている。

表 8 は平針団地と阿久和団地の自治会活動の比較結果である。平針団地においては高齢者に対する活動を積極的に行っているが、阿久和団地においては高齢者だけでなく幼児に対しても取り組みを行っている。この背景には阿久和団地の人口が関係している。阿久和団地のある「阿久和南地区」は瀬谷区(横浜市)の中でも3番目に人口の多い地区である。また、15歳未満の割合も17.7%(平成15年現在)と全国平均13.7%(平成17年度現在)と比較しても高い割合である。

平針団地はボランティア団体などといった外部との連携とも希薄なため活動自体も縮小したものとなっている。

逆に、阿久和団地は自治会独自の活動は非常に縮小したものである。しかし、福祉施設や周囲の機関の協力があるため住民の生活が成り立っているといえる。自治会独自で活動をしていく事も大切であるが、阿久和団地のように自治会活動だけでなく地域のボランティアや福祉機関といった専門分野の方の協力を得る事で住民、自治会、地域のコミュニティを育む場として大いに活用できるのではないかと考える。

表 9 活動内容一覧

自治会の取り組み内容	平針団地	阿久和団地
会食サービス		
配食		
健康相談		
レクリエーション		
地域デイグループ		
健康体操		
地区リハビリグループ		
老人会		
地域サロン		
地域イベント行事		
子供会		
子育て支援グループ		
家具転倒防止策(高齢者向け)		
ガス漏れ警報機設置(高齢者向け)		

■高齢者向け ■一般向け □幼児向け ■その他

表 9 は平針団地周辺の福祉施設と阿久和団地・熊野団地周辺の福祉施設のサービス内容を示している。デイサービス、グループホーム、地域交流、健康器具貸与、障害者共同作業所等は2団地とも実施されている。その中で、各団地の活動内容を平針団地周辺の福祉サービスと比較したところ、大きな違いがでてきたのは、「地域交流」に関してであった。

表 10 地域交流サービス比較表 (印は実施)

対象別(グループ分け) 実施内容	平針団地周 辺の地域交	阿久和団地 周辺の地域	熊野地域健 康センター
勤労体験			
体験学習			
レクリエーション			
地域住民との行事			
ボランティア活動提供の場			
外国人のための勉強会			
育児支援			
障害者に対するの支援活			
定期的な掃除			
地域防災			
多目的ホールの貸し出し			

■学生 ■一般 □幼児 ■障害者 ■その他

表 10 は地域交流における平針団地と先進事例との比較結果である。表より地域交流に関しては阿久和団地の方が種類も多く、質の良いものが行われているのが分かる。定期的に活動日程を決め、ふれあいを深めつつ、趣味や清掃、定期的な祭りなど子供から高齢者までを対象に行い、内容に関しても、障害者への支援活動、多目的ホールの貸し出し等、平針団地周辺の福祉サービスで実施されていないものも含め、多くの地域交流を実施している。阿久和団地では行政と自治会と福祉施設が連携して、サービスを実施している。そして、連携しているだけでなく、地域密着で活動を進めている。福祉サービスの種類に関して、阿久和地域ケアプラザは地域交流が充実していた。

6. まとめ

本研究は県営住宅の自治会活動の内容を把握し、福祉施設と自治会がどのように関係しているのかを明らかにしようとしたものである。調査は愛知県営住宅 302 にアンケート調査を行い、900 戸以上の規模団地に関してはヒアリング調査を行った。

・県営住宅の現状としては、国の施策でもある「第二期住宅建設五箇年計画」が行われるようになった昭和 46 年頃から新耐震設計基準法を境として住宅の供給数が増加している。

・公営住宅の住戸計画において福祉対策や障害者対策はある程度行われている。これから必要となるのはハード面の整備とともにソフト面の整備である。ソフト面の整備において自治会による活動が最も身近で有効的なものと考えられる。主な結果は以下のとおりである。

・団地周辺には福祉施設よりも医療施設や保育施設が設けられている事が多かった。

・自治会活動については大規模になるほど委員会数が多く構成され、同時に行事回数も多い。

・大規模団地の中では2グループに分かれ、1つは自治会組織がまとまっているため活動が活発であり、もう一つは十分な組織体制が取れていない団地は比較的縮小した活

動となっている。

・自治会活動を支える要因として協力機関との連携があげられる。

・自治会で十分行う事のできない活動については老人会や保健所などの行政的な機関の協力を得る事により高齢者に対するの活動を提供する事ができている。

全国での福祉施設が充実している自治会と愛知県の自治会を比較してみると、愛知県の自治会、特に平針自治会が自治会活動としては最も活発であることが分かった。ただし、全国の事例で優れている点としては、地域団体や民間の福祉施設との連携がはかれている事である。団地のすぐ近くに施設があるという地理的要因もあるが、自治会と施設とが協力して住民にサービスを提供している。また、自治体が多く地域ボランティアグループと交流があるため高齢者に対するの支援だけでなく子育て支援も行われている。地域ボランティアと連携することによって、相互扶助や精神的なケアの体制を整えつつある。また、コミ

ュニティの面でも地域間の繋がりが育まれやすくなる。

謝辞

この研究にあたってご協力いただいた各団地自治会長をはじめ、愛知県公営住宅課山内氏、県営平針住宅自治会久富氏、阿久和団地自治会長沢木氏に対し、心より感謝の意を表します。

参考文献

- 1) 岩本節子：高齢社会に対応する地域における保健福祉の可能性に関する - 考察人間文化研究、巻号 2、P1-18、2004
- 2) 池上重弘、福岡欣治：外国人居住者は地域コミュニティの担い手となり得るか、静岡文化芸術大学研究紀要、vol. 5、2004 他

(受理 平成 19 年 3 月 19 日)